

淡水魚増殖試験 魚病対策事業

清川智之・山根恭道

県内の内水面養殖業における魚病被害を軽減するため、巡回による養魚・魚病指導、および魚病発生時には病魚検査・分離病原菌の薬剤感受性検査等を行った。その結果をもとに、業者に対し治療・対策方法並びに水産用医薬品の適正使用について指導を行った。

◎魚病の検査方法について

魚病検査は養殖漁業者等により持ち込まれるか、または現地調査で得た検体魚について行った。検査内容は聞き取り、魚体外部・内部の肉眼観察、検鏡観察および細菌分離である。分離菌の薬剤感受性検査は病魚検査により分離された菌について、必要に応じてディスク法により実施した。

1. 防疫対策定期パトロール

表1に示すように、各増養殖経営体を巡回し、飼育管理指導、魚病発生状況調査等を行った。

表1 防疫対策定期パトロール

年 月 日	実施地域		内 容
平成7年4月7日	吉田村	ヤマメ	飼育管理、魚病発生状況調査
6月12日	邑智町	アユ	〃
6月14日	平田市	キンギョ	〃
6月26日	羽須美村	アユ・コイ	〃
7月13日	羽須美村	アユ・コイ	〃
10月13日	羽須美村	アユ	〃
平成8年1月17日	江津市	アユ	〃
2月20日	江津市	アユ	〃
2月29日	大田市	ヤマメ	〃
2月29日～3月5日	三刀屋町	アユ	〃

2. 魚病発生時の緊急対策

表2に示すように、各増養殖経営体に発生した魚病の同定、対策指導を行った。今年度の特徴として、1. コイ、キンギョに鰓病が多く発生したこと、2. アユの魚病（特にスレによるピブリオ病）が種苗導入時に多く認められ、また導入直後から薬剤耐性化が進んでいたこと、3. 近県で発生しているサケ科魚類のウイルス病（IHN、IPN）がみられなかったこと、があげられる。

表2 魚病発生時の緊急対策

年 月 日	実施地域	内	容
平成7年4月13日	江津市	ア ユ	ビブリオ病 抗菌剤投与
4月26日	出雲市	コ イ	白点病 マラカイトグリーン浴
5月13日	旭 町	ニシキゴイ	キドロネラ病 環境改善（注水量増）
6月8日	江津市	ア ユ	ビブリオ病 抗菌剤投与
6月12日	羽須美村	ア ユ	ビブリオ病 抗菌剤投与
6月14日他	平田・出雲市	キンギョ	カラムナリス病 食塩浴・抗菌剤投与
6月26日	羽須美村	コ イ	カラムナリス病 食塩浴・抗菌剤投与
7月31日	匹見町	ヤマメ	ビブリオ病 抗菌剤投与
8月4日	頓原町	ニシキゴイ	白点病 マラカイトグリーン浴
8月19日	三刀屋町	キンギョ	白点病 マラカイトグリーン浴
8月30日	柿木村	ヤマメ	ビブリオ病 抗菌剤投与
9月7日	瑞穂町	ニシキゴイ	チョウ症 トリクロルホン浴
9月22日	吉田村	ニジマス	チョウモドキ症 トリクロルホン浴
11月1日	石見町	カワムツ	不明（疾病による死亡とは考えられない）
平成8年2月6日	大東町	ヤマメ	せっそう病 抗菌剤投与
2月26日	三刀屋町	ア ユ	ビブリオ病 環境改善、抗菌剤投与

3. 魚病発生防止対策

養殖場の定期観測

表3に示すように平成8年1月～平成8年3月にアユ種苗生産施設の水質調査を行った。

表3 養殖場の定期観測

年 月 日	実施地域	内	容
平成8年1月17日	江川漁協アユセンター	水温、pH、SS、DO、その他	
平成8年2月20日	江川漁協アユセンター	水温、pH、SS、DO、その他	
平成8年2月19日～2月24日	斐伊川漁協	水温、pH、DO、塩分	
平成8年2月25日～3月5日	斐伊川漁協	水温、pH、DO、塩分	

魚病情報の収集、伝達

魚病発生時の緊急対策として病魚を収集し、その検査結果等を養殖漁業者に伝達した。その他病魚に対する一般的な相談や医薬品の使用に対する相談を受けることにより、魚病情報の収集を行った。その結果を表4に示した。

表4 魚病情報の収集、伝達

魚病情報の種類	件数	情報源と伝達先
収集 魚病相談（照会）	30	養殖漁業者
魚病相談（検査依頼）	17	養殖漁業者
伝達 魚病診断結果および予防治療対策	17	養殖漁業者

4. 医薬品適正使用対策

巡回指導時に医薬品に関する知識を普及した。また、10月にはヤマメ、ニジマス養殖業者を対象に医薬品適正使用を含めた魚病講習会を行った。その結果を表5に示した。

表5 医薬品適正指導対策

年 月 日	実施地域	対象者（人数）	実施内容
平成7年6月20日	全 県	ヤマメ養殖業者 10	水産用医薬品の適正な
平成7年10月13日	羽須美村	アユ養殖業者 5	使用方法について指導